

## 令和6年度 林業試験研究推進計画書

<b>1 課 題 名</b>	(大項目)	中山間対策（特用林産の振興）				
	(小項目)					
	(課題名)	イタドリの品種選抜に関する研究				
<b>2 研究期間</b>	令和3～7年度		<b>3 総括責任者</b>	森林経営課 黒岩 宣仁		
<b>4 研究費 (千円)</b>	令和3年度	962	((国)	(一)	962	(財・諸)
	令和4年度	875	((国)	(一)	875	(財・諸)
	令和5年度	869	((国)	(一)	869	(財・諸)
	令和6年度	982	((国)	(一)	982	(財・諸)
	令和7年度		((国)	(一)		(財・諸)
	計	3,688	((国)	(一)	3,688	(財・諸)

### 5 背景と目的

イタドリは高知特有の食文化として知られ、過疎化高齢化で耕作放棄地が拡大する中山間地域の換金作物として有望である。また、最近、健康食品としての優れた機能が解明されると共に、地産外商の取り組みによって県外への販売拡大が期待されている。

今後、生産性と品質管理を向上させるためには優良系統の普及が必要となる。高知県では現在、既存の優良系統を普及させ増産を進めているところであるが、県内の優良系統は1系統のみで、反収を上げるために多収性系統の栽培が求められている。一方、最近、高知県立大学の研究によって、イタドリの葉にネオクロロゲンやルチンなど、人の健康に有益なポリフェノール類が多く含まれることが解明され、イタドリ葉茶の販売拡大への期待が高まっており、ポリフェノール類を多く含む系統の選抜や葉の採取方法の開発が求められている。

このように中山間地域対策としてイタドリに対する県民の期待は大きく、優良な系統が選抜できれば、特用林産を通じた中山間地域の所得向上と地産外商が推進できると考えられる。

### 6 到達目標

食品加工に向けた規格化と生産性の向上に対応できる優良系統の選抜および生産方法の開発

### 7 要望課題との関連

要 望 提 出 機 関 名	要 望 課 題 名
木材産業振興課	「市場性の高いイタドリの品種選抜に関する研究」
高知県食品工業団地事業協同組合 (株式会社アミノエース)	「イタドリ葉茶用系統の選抜」

### 8 既往の研究成果の概要

#### 1) イタドリ優良系統の選抜と増殖

令和元年関西林試協特産部会研究発表 和歌山県林業試験場特用林産部 杉本小夜 令和元年若芽発生時期、茎の発生本数と太さ、収量、皮の剥ぎやすさ等は系統により差がある。太い若芽の方が皮剥後の茎（食用部位）の割合が多い候補系統32株から「東牟婁3」を選抜し普及。

#### 2) 優良系統の探査、収集及び選定と生理生態の解明 B. イタドリの栽培技術の確立

高知県農業技術センター山間試験場、山地林産科 平成3～8年

県内各地より収集した33株の中から、全長30cm以上、元茎1cm以上の秀品本数が20本以上、10aあたりの収量1000kg以上などの評価により有望系統3系統を選抜

### 9 研究結果の概要

#### 1) 令和3年度

国有林を中心に全県下61地域152個体を採集し生育地データを記録して圃場に植栽した。イタドリの品種選抜に関する検討会を開催し、選抜目標を①皮の剥ぎやすさ、②15ミリ以上の茎の本数、③早晩性、④茎の中身の色が鮮緑色であることとした。採集した152個体と対照系統「鏡1号」を挿し木し、和歌山県林業試験場「東牟婁3」を譲渡依頼して試験供用株を準備した。

#### 2) 令和4年度

生産者の代表らで38系統を一次選抜した。一次選抜系統と対照系統の挿し木苗を鉢上げして育成し、圃場にバーク堆肥と鶏糞ペレットを混入して攪拌し、防草用黒マルチを張って1系統につき10個体の苗を植え付けた。

### 3) 令和5年度

3月上旬から地上部に芽が出た日を記録して早晩性を調査し、系統によって1ヶ月程度の差があることが分かった。また、育成中にコガタリハムシや穿孔性害虫が発生した。10月中旬に葉と花序を除いた茎を乾燥させ乾燥重量を計測したところ、2つの対照系統より重い系統があることが分かった。

## 10 研究年次計画

試 験 計 画		担当者
試験項目・試験内容	試験年度	
1. 選抜目標の設定 1) 選抜目標の設定 検討会を開催し選抜目標を決定する。	R3	森林経営課 黒岩宣仁 山崎敏彦
2. 優良系統候補の収集 1) 優良系統候補の収集 栽培保存圃場を整備し、四国森林管理局等の協力をへて選抜目標に適合した系統を県内各地から収集保存する。	R3	
3. 試験用個体の増殖・育成 1) 収集した親株から挿し木により試験供用苗を増殖する。		
4. 一次選抜 1) 選抜目標に照合して評価し一次選抜する。	R4	
2) 一次選抜系統の試験供用苗を均質な畑に植え付け育成する。	R5	
5. 計測と最終選抜 1) 苗を3年間育成し、計測項目を設定して計測する。	R5~R7	
2) 総合的に評価して最終的に優良系統を選抜し保存する。	R7	
6. 葉茶用イタドリの選抜と採取方法の開発 1) 高知県立大学の成分分析により、収集したイタドリから葉のポリフェノール類含量の高い系統を選抜し保存する。	R6~R7	
2) 採取部位や採取時期による葉のポリフェノール類含量の変化を調査するなど、葉の採取方法について検討する。		

## 11 当年度研究実施計画

- 1) 試験供用系統の計測 (2024年4月)
- 2) 試験供用苗の管理 (除草と害虫駆除・通年)
- 3) 早晩性調査 (2025年3月)
- 4) 規格の若芽を採取、収量、剥ぎやすさ、茎の厚み、内部の色等を評価する。(2025年3月)
- 5) 葉茶用イタドリの選抜保存
- 6) 葉の採取部位および時期の違いによるポリフェノール類含量の変化 (高知県立大学と共同)

## 12 協力・共同機関

協力：四国森林管理局、高知県立大学、農事組合法人梅の木ファーム、JA高知市鏡支所イタドリ部会、高知県イタドリ生産普及販売促進協議会、県林業事務所、県農業振興センター、農業技術センター等

## 13 産業振興計画との関連

第4期 地域アクションプラン

・高知市地域 No.10「イタドリの外商推進による中山間地域の振興」

第5期 地域アクションプラン

・高知市地域 No.6「イタドリの増産による中山間地域の振興」